

市民活動 サポートセンター 通信



コロナ禍で再注目！子どもを中心にした居場所づくり ✦

長野県では子どもを中心に大人や地域に相乗効果をもたらす居場所づくりとして、学習支援や食事提供を核に悩み相談など複数の機能をもつ「信州子どもカフェ」の開催を推進しています。コロナ禍で集まることができない、食事の提供ができないといった状況になった一方で、助けを求める声や居場所を求める声も増えています。今回はコロナに対応した活動で再注目を集める「居場所づくり」を取り上げます。

子ども食堂は貧困家庭のための支援だけじゃない。地域の絆づくりの要になりうる。



特定非営利活動法人
NPO ホットライン信州
専務理事 青木 正照さん

「子ども食堂」＝貧困家庭に食事を提供する活動、というイメージが根強く残っていて抵抗を感じる方もいます。ですが実際には貧困かどうかはあまり関係なく、「孤食を防ぎ、人とのつながりを感じられる場」ということに重きを置いています。子どもを中心に、大人も含めていろんな人が関わるみんなの居場所なのです。ここで出来たつながりが別の機会に役立つなど、地域を前向きにつなげる力を秘めています。

県内で子ども食堂を初めて開設し、取り組みを広げようと奮闘されている青木さんにお話を聞きました。

—どうして子ども食堂を始めようと思ったのですか

大手電機メーカーに入社後労働組合活動に専念し、連合長野の事務局長も務めました。その長い組合活動の中で多くの生活困窮者を目の当たりにし、退職後の2011年、24時間いつでも生活相談に応じる「特定非営利活動法人NPO ホットライン信州」を開設しました。

そして、特に相談が多かったひとり親家庭の力になりたいと、2016年1月に「こども食堂」、その翌月には「信州子ども食堂ネットワーク」を立ち上げました。

—困ったことはありませんでしたか

特にこの2年間はコロナ禍で、開催にあたっては様々な制約がありましたが、工夫を凝らし戸外での開催やフードパントリーを行うなど、活動を停滞させることなく続けました。

—子ども食堂を開設するにはどうすればいいですか

場所さえ確保して頂ければ、簡単な書類に記入して頂くだけですぐに始められます。必要な物資の提供をはじめスタッフがサポートします。また、万が一に備え保険加入制度も整っています。食育は大変重要です。子ども食堂はこの5年間で県内各地に115か所開設されましたが、県内の小学校通学区370か所全てに開設したいと思っています。充実したサポート体制がありますので、思いのある方は安心して声をかけてください。（次のページに続く）

—今一番強く思うことは

社会的に弱い立場の人がコロナ禍でさらに追いやられ、困窮者が増え続けています。目の前に困っている人がいたら助け合い支えあう、そんなことが普通にあたり前に行われる社会になって欲しいと願っています。人と人のつながりを大切に活動していきたいと思っています。

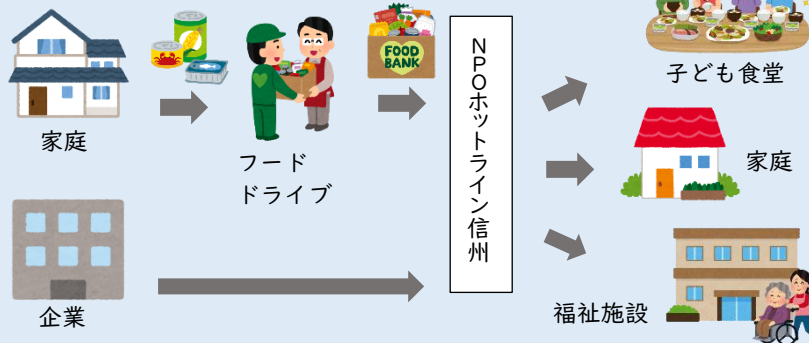


5年間に亘る、熱く地道な努力に対して、昨年「第19回読売福祉文化賞」が贈られました（全国で6団体個人が受賞）。同年1月にも内閣府の「子供と家族・若者応援団表彰」を受けており、活動が全国レベルで認知されてきています。

令和3年の活動の締めくくりは、島内公民館で開催した大晦日の「年越し信州子ども食堂」。年末までフル稼働で多くの方に思いを届けました。

インタビュー中にも、物資を届けてくれる人、逆に物資をもらいに来る人、電話対応などで忙しく動く青木さん。常に今と未来を考え、仲間と共にひたむきに進む…その姿に圧倒されました。（取材：磯野）

NPO ホットライン信州によるフードバンクの取り組み



企業が抱える未利用食品や家庭に眠っている食品の寄贈をうけ、子ども食堂や生活困窮家庭に提供しています。全県で活動しているフードバンク団体としては他に認定特定非営利活動法人フードバンク信州があります。

（長野県庁県民文化部
次世代サポート課の資料より作成）

多彩！市内での取り組み

～いろいろな道のひとつとして～

Dilse (ディルセ)

【12月21日(火) 明科「龍門淵テラス」】

NPO 法人 Gland・Riche が取り組む子どもの学習支援・生活支援事業です。約5年前から引きこもり・不登校といったお子さんの支援に取り組んでいます。今年度から安曇野市の委託を受け、生活困窮者支援事業の一環としても運営しています。毎週火曜日～木曜日に開催。火曜日は初めての方も参加しやすいように様々なイベントを開催し、それ以外は自分のペースで過ごせる日にしています。本人が通う学校に認められれば、ディルセで過ごす時間も出席扱いになります。

火曜日と木曜日の会場は明科にあるシェアスペース「龍門淵テラス」の3階です。2階は食事や仕事、打ち合せなどができるスペースになっていて、時折コーヒーのいい香

りや楽しげに話す声の流れてきます。不登校のお子さんだけでなくいろんな人が集まり、そこかしこで挨拶が交わされ、笑い声の聞こえる心地の良い場所です。取材した日は「からだの日」で、お兄ちゃん先生が近くの公園の芝生の上でバク転を披露したり体の使い方を教えてくれたりしました。他にも冬休みの宿題に取り組むなど思い思いの過ごし方をしていました。

責任者の岩田さんに思いをお聞きました。

「一歩外に出て、気軽に来れる場」。学校に行かなくても生き方の道はたくさんあります。選択肢が増えれば一歩外に出ることにつながります。様々な理由で学校に行かない子どもの居場所となり、あきらめなくていいんだよ、ということをお伝えたいです。—

資金面では県や市と連携しながら、人材面では得意を生かして協力してくれる人を増やしながら、暖かい居場所を作り出していました。（取材：藤原）

～現代風縁日・子どもと保護者の協力で毎月開催～

こどもカフェ むぎむぎ

【12月19日(日) 堀金「お野菜懐石&organiccafe~manaya」】

子どもたちが主体的に運営しているユニークな子どもカフェで、むぎむぎクラブ代表の太田真理子さんが約1年半前にはじめた取り組みです。この日の食事は手打ちうどん。子どもたちと一緒に育てた麦を使い、大人が生地を用意し、子ども達が練ったりちぎったりして、手のひらに乗る位の大きさにまとめ、お気に入りの製麺機で薄く延ばし適当な幅に切っていました。お店に負けないくらい美味で満足感がありました。



食事の提供だけでなくワークショップも同時開催していました。紙製のクリスマスツリー作りと白色の粘土にアロマエッセンスを練り込んで作るアロマストーン作りでした。どちらも担当の子ども達が制作を手助けしてくれ、誰でもできる工夫がされていました。

イベント全体にわたって、運営を担当した子どもたちが生き生きと活動するのが印象的でした。保護者の皆様も準備するのが楽しそうでとても良い雰囲気でした。「みんなで得意を分かち合い、苦手を補い協力し合うスタイルを目指している」とのことで、随所にその様な場面を垣間見ることができました。やる気と活力を感じるイベントで、現代風の縁日という印象でした。子どもたちの居場所を作るところを超えて自主性、主体性を育てる場になっていました。この日は安曇野ライオンズクラブからクリスマスを祝うショートケーキのプレゼントもあり、参加した子供たちは大喜びでした。カフェは月に1回、日曜日に開催する予定になっています。

(取材：今泉)

～子どもも大人もごちゃまぜで過ごす～

あづみの cocoro カフェ

【11月23日(火) 豊科老人福祉センター】

安曇野市社会福祉協議会豊科支所が中心になって組織した実行委員会により開催されました。cocoroのcoは子ども、coは高齢者(=合わせてすべての人)、roはroot for(応援する)からつけた名前前で、すべての人がお互いに応援し合う場という意味が込められています。

新型コロナウイルス感染防止対策をした上で開催され、30人以上のボランティアが運営に携わりました。親子連れを中心に、子どもも大人も200人以上が参加し交流を楽しみました。

食事のカレーライスは安曇野調理師会の皆さんがボランティアで作ってくださったもので、食材はNPOホットライン信州や市民の皆さんから寄付していただいたものです。食事の前後にはレクリエーションがあり、松本短期大学の学生などによる楽しいゲームやク



イズ、人形劇、ものづくりコーナーなどがありました。「食」や「命」のお話では食材がどこから来ているのか学びました。子育てや子どもに関するなんでも相談会も合わせて開催され、帰りにはお米などの食材を持ち帰ることもできました。

3日間煮込んで作ったプロのカレーをみんなで美味しくするにはおぼっている笑顔の姿が印象的でした。参加者もボランティアも嬉しいひと時を過ごしました。

今後も食事や食料を提供し、地域とつながれる場を提供することを目的に、年3回程度開催していく予定です。子どもやその家庭を地域で支える取り組みが他の地域にも広がってほしいと意気込んでいます。

(取材：林)



情報コーナー

*新型コロナウイルスの感染状況によっては中止または縮小となる場合があります。
 *詳細はお問い合わせ先へご連絡ください。
 *市民活動サポートセンターホームページでより詳しい情報を掲載しています。

トークサロン 安曇野の鉄道とバス **要申込**

～大系線と松電バスを写真と時刻表で回想～

- 日時 1月13日(木)13:30～16:00
- 場所 穂高公民館 第3会議室
- 内容 ・大系線と池田鉄道の歴史・大系線のダイヤと旧型電車・昭和40年代の松電バス路線とそのダイヤ
- 講師 矢花 和成さん
- 参加費 500円(資料代)
- 申込 安曇野案内人倶楽部 宗像さん(73-3743)

さとやま学校 案内人の教室 **要申込**

安曇野の魅力を知り、伝え方を学ぶ講座です。ガイドの企画から実践について学びます。

- 日時 1月26日～3月23日の水曜日【全5回】
9:00～12:30
- 場所 国営アルプスあづみの公園
- 定員 10人(先着順) ○参加費 3,000円
- 申込 1月16日(日)までに国営アルプスあづみの公園 堀金穂高管理センターへ(71-5511)

いいまちサロン歴史講座 明科地域の戦国時代

武田氏滅亡後、混迷を極める信州で、敵対勢力の境におかれた明科地域の山城も戦乱の渦に巻き込まれていきます。

- 日時 1月25日(火)10:00～11:30
- 場所 明科公民館 講堂
- 講師 逸見 大悟さん(安曇野市教育委員会文化課)
- 参加費 300円(資料代)
- 問い合わせ 明科いいまちつくろうかい!!
明科公民館(62-4605)

異彩放つ源平浪漫 木曾義仲と勇将たちの夢の跡

巴ら勇士との学び、初陣、激戦、入京、源頼朝との確執など多くのエピソードを踏まえ木曾義仲の実像に迫ります。

- 日時 1月29日(土)14:00～15:30
- 場所 明科公民館 講堂
- 講師 長瀬 啓一智さん(「木曾義仲と松本平」編集委員)
- 参加費 500円(資料代)
- 問い合わせ 安曇誕生の系譜を探る会 川崎さん
(090-5779-5058)

NPO法人運営セミナー「法人経営をアップデート」

～認定NPO法人・県条例指定NPO法人の活用～ **要申込**

- 日時 1月21日(金)13:30～16:00
- 方法 オンライン(Zoom)
- 内容 ・認定&長野県条例指定NPO法人制度の概要
・事例紹介・認定取得のための組織基盤強化
- 定員 100人(先着順)
- 申込 1月17日(月)までにながの電子申請で
- 問い合わせ 長野県 県民協働課(026-235-7189)

各種計画に関する意見を募集

計画(案)名	概要	提出期限
第3次市農業農村振興基本計画	課題を整理し農地を守り稼げる農業を生み出すための方策と目標を示す	1月17日
水環境基本計画 水環境行動計画	地下水資源を次世代に引き継ぐための方向性を定める	1月18日
第4次市交通安全計画	交通安全対策に関する施策の大綱を定める	1月18日

長野県「地域発 元気づくり支援金」

地域住民が主体的に取り組む、地域の元気を生み出すモデル的で発展性のある事業に対し支援金を交付します。

- 助成対象 公共的団体等(地域づくり団体、NPO、自治会等)
- 補助率 ソフト事業…3/4以内、ハード事業…2/3以内(補助額下限30万円)※重点テーマは補助率が異なる。
- 申込 2月1日(月)までに地域づくり課へ必要書類を2部提出
- 問い合わせ 松本地域振興(40-1902)

安曇野市社会福祉協議会 共同募金分配金助成

- 助成内容 支援事業(居場所支援、生活困窮者支援、地域の防災・減災支援、学習支援、課題を抱える人の支援等)
- 助成対象 市内に拠点を置く福祉団体・ボランティア団体・市民活動団体
- 助成金額 上限10万円
- 募集期間 1月31日(月)まで
- 問い合わせ 安曇野市社会福祉協議会 地域福祉係
(72-1871)

◆◆◆イベント情報をお寄せください◆◆◆

- ・市民活動サポートセンター通信やホームページで、皆さんの活動やイベントの広報をします。参加者や会員の募集を呼び掛けることができます。お気軽に市民活動サポートセンターへご連絡ください。
- ・イベントや催し、普段の活動に職員や市民活動サポーターが取材に伺います。活動のPRにご活用ください。

【発行】安曇野市市民活動サポートセンター

住所 〒399-8281 安曇野市豊科6000番地
 安曇野市役所本庁舎2階 地域づくり課窓口
 電話 0263-71-2013 FAX 0263-72-3176
 メール kururin@city.azumino.nagano.jp

開庁時間 午前8時30分～午後5時15分
 休業日 毎週土・日曜日、祝日
 年末年始 12月29日～1月3日

ホームページ <https://www.city.azumino.nagano.jp/site/azumino-sk/>

